

広報紙と写真で振り返る 久喜の50年



●合併祝賀会のように
（昭和29年）



●旧市役所
「広報くき」昭和49年特集号

広報くき 12



十月一日久喜市誕生

●市制施行記念式典
「広報くき」昭和46年12月



●市役所

広報くき 2



●西口完成予想
「広報くき」昭和62年2月



●大宮東橋・上早見歩道橋
「広報くき」昭和43年3月



●総合文化会館落成
「広報くき」昭和62年4月

久喜市公文書館

平成16年9月14日(火)～11月14日(日)

久喜市誕生

昭和29年の町村合併

戦後の町村財政の危機を克服し、地方自治の財政基盤を強化確立し、併せて地方自治の簡素合理化を図ることを目的として、昭和28年9月に3年間の時限立法で「町村合併促進法」が公布されました。埼玉県でも、同年10月に埼玉県町村合併促進審議会を設け、各市町村に対して積極的な指導を進めました。久喜市においても、昭和29年7月1日、久喜町・太田村・江面村及び清久村の1町3村が、町村合併促進法により合併して、今日の久喜市の前身である久喜町が誕生しました。



久喜町沿革図



合併当時の久喜町役場

市制施行

急速な人口の増加と都市化の進展の中で、久喜町でも市制施行への動きが活発になってきました。昭和45年5月30日には市制施行準備委員会が設置されて、市制施行の目標日が昭和46年10月1日と定められました。昭和46年5月12日の臨時議会において「久喜町を久喜市とすることについて」の議案を提案し、満場一致で議決されました。市制の申請を県知事に行い、同年10月1日に久喜市が誕生しました。



広報くき 昭和46年12月



広報くき 平成3年11月

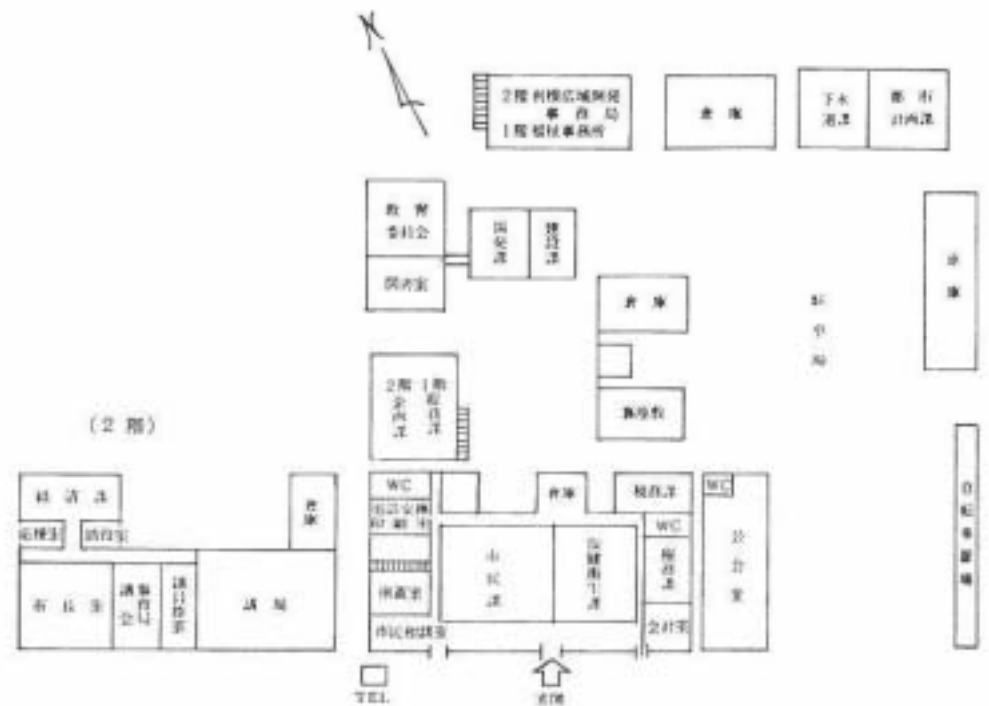
行政

庁舎



旧市役所

市役所配置図



広報くき 昭和47年7月

昭和29年の1町3村の合併以来、庁舎は旧久喜町役場を使用していました。人口と行政需要の増大に対応した職員の増加により、プレハブ庁舎の増築などをしたものの、手狭となったため、新庁舎の建築が急がれました。新庁舎の建築は、昭和54年3月に着工され、昭和55年9月に大字下早見85番地の3に敷地10,109平方メートル、鉄筋コンクリート造り、地上6階建、延床面積7,089平方メートルの新庁舎が完成しました。

市の組織

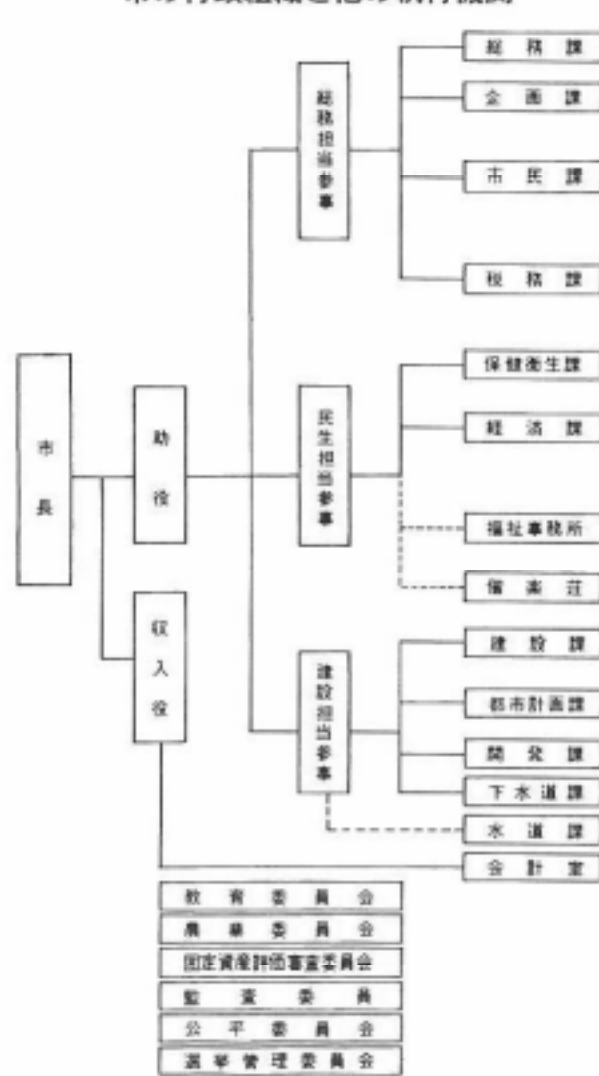
発足当時の久喜町役場機構図



(外局) 教育委員会事務局

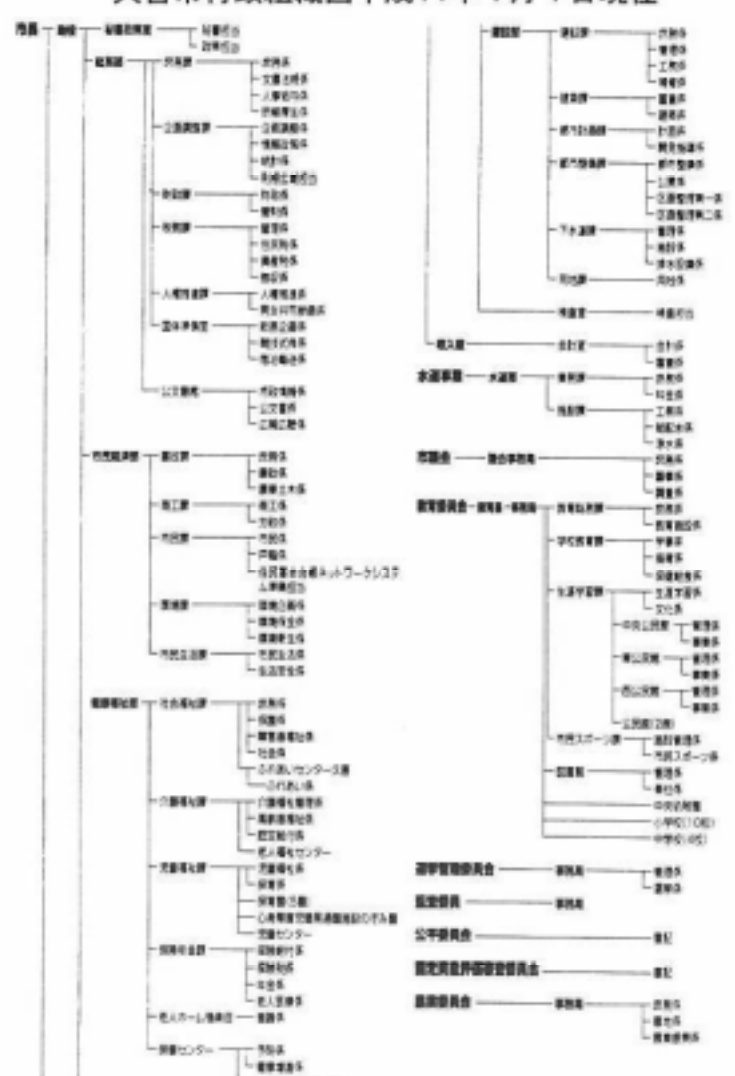
久喜市史 通史編 下巻

市の行政組織と他の執行機関



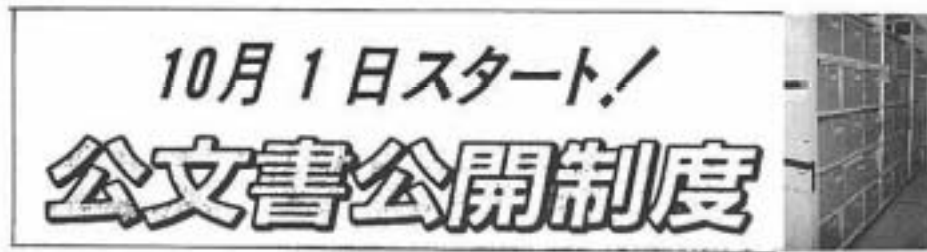
広報くき 昭和47年6月

久喜市行政組織図平成14年4月1日現在



久喜市勢要覧2003〔資料編〕

開かれた市政



**10月1日スタート！
公文書公開制度**

市民の皆さんが市に対して、公文書の公開を求める権利を保障する「公文書公開制度」が、10月1日からスタートします。今号では、この制度のあらましについて、お知らせします。

○公文書公開制度
市民の皆さんが市に対して、公文書の公開を求める権利を保障する「公文書公開制度」が、10月1日からスタートします。今号では、この制度のあらましについて、お知らせします。

○公開しない公文書
次のいずれかに該当する情報は、記録されている公文書については、請求があっても情報の性質上公開しないこととなります。
1 特定の個人が識別される情報
2 法令の規定により公開できないとされている情報
3 公開しないことを条件として任用に提供された情報
4 公開することにより法人等の正当な利益を害すると認められる情報

○公開請求ができる公文書
平成5年10月1日以降に、市の職員が作成したか、または取得した文書、図画、写真及びこれらを複製したマイクロフィルムで、複製等の手続きが終了したものです。

○公開請求ができる方
この制度を利用できる方は、次のとおりです。
1 市内に住所のある方
2 市内に事務所または事業所をもつ個人及び法人その他の団体
3 市内に通勤または通学している方
4 市の事務等に利害関係のある方

ただし、上記以外の方の利用にも応じますのでご相談ください。



広報くき 平成5年8月

市民と一体となった協働のまちづくりを進めるために、市政への積極的な参加を促し、地方分権社会の基礎となる市民自治のまちづくりを進めています。



久喜市公文書館

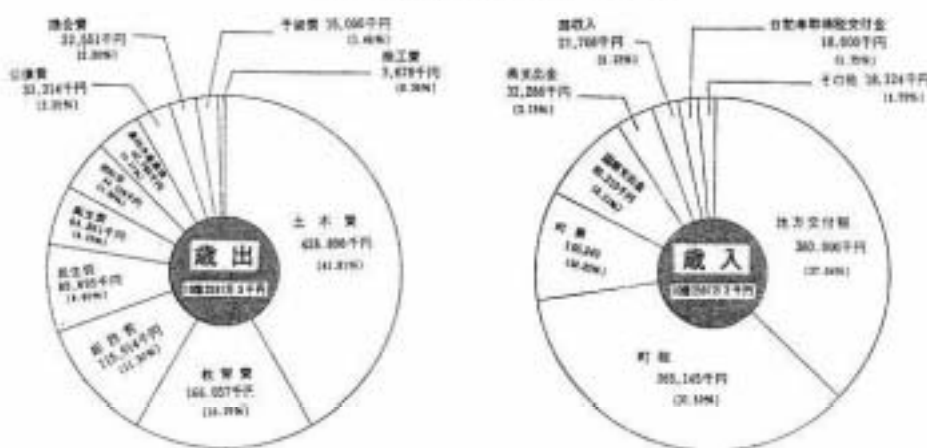


市民懇談会

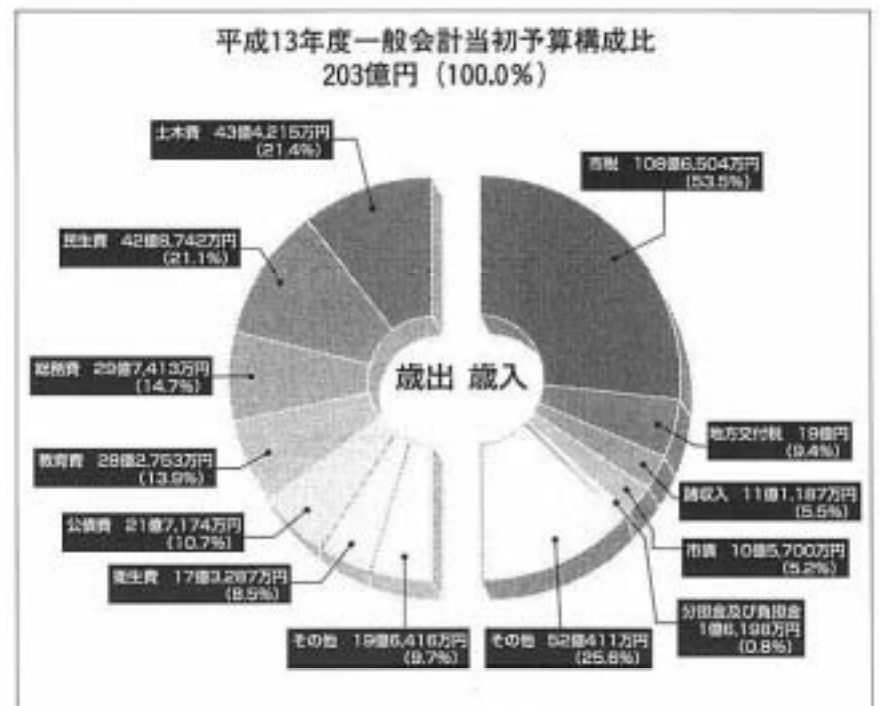
財政状況

昭和39年度には1億6,067万円だった一般会計予算も、平成13年度には203億円となりました。

46年度予算は
このように使われます



広報くき 昭和46年6月



広報くき 平成13年4月

年度	一般会計予算	教育費	土木費	民生費
S 39	1億6,067万円	4,364万円 (27%)	1,350万円 (8%)	1,359万円 (8%)
S 46	10億2,591万円	1億6,606万円 (16%)	4億2,890万円 (42%)	8,870万円 (9%)
S 56	81億1,338万円	20億5,346万円 (25%)	16億4,320万円 (20%)	13億3,518万円 (18%)
H 3	150億3,500万円	24億0,081万円 (16%)	39億7,528万円 (26%)	20億3,569万円 (14%)
H 13	203億 円	28億2,753万円 (14%)	43億4,215万円 (21%)	42億8,742万円 (21%)

人口の増加

昭和30年以降の人口の推移は、下記のとおりです。

	世帯数	男	女	総計
昭和30年	4,023 戸	10,931 人	11,151 人	22,082 人
昭和35年	4,426	11,523	11,591	23,114
昭和40年	5,813	13,348	13,425	26,773
昭和45年	8,209	17,012	17,016	34,028
昭和50年	12,165	22,868	22,929	45,797
昭和55年	14,856	27,234	27,176	54,410
昭和60年	16,411	29,213	29,423	58,636
平成2年	19,928	33,451	33,401	66,852
平成7年	23,212	36,538	36,092	72,630
平成12年	24,606	36,393	36,261	72,654

『平成15年度 統計くき（第25号）』 国勢調査による人口の推移

昭和30年には、人口22,082人（世帯数4,023戸）でしたが、昭和45年には34,028人（世帯数8,209戸）となり、3万人台に達しました。そして、昭和46年に市制施行しました。その後も人口は増加し、昭和52年には人口が5万人となり、平成4年には人口が7万人を超えました。

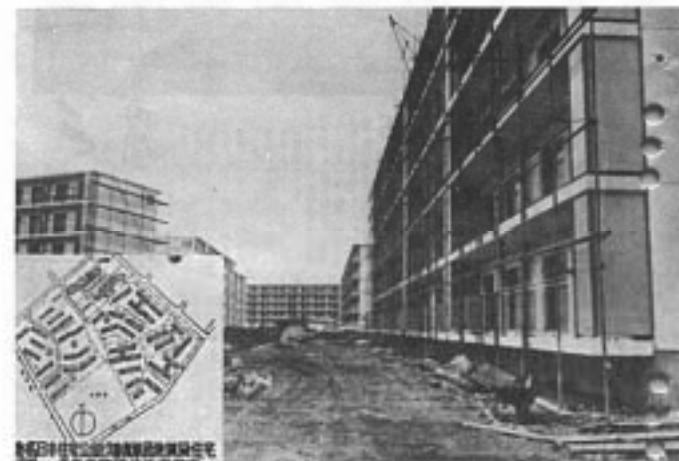
久喜市の人口が増加した特徴としては、昭和33年の東北線電化によって、都心まで1時間以内で通勤可能なベッドタウンとなったため、県内外からの転入者が増加したからです。



電化工事のすすむ
久喜駅付近（昭和31年）



道合団地竣工式（昭和41年）



まもなく完成の青葉団地（昭和49年）

久喜市吉羽土地区画整理事業区域及び隣接区域における町名変更の地区



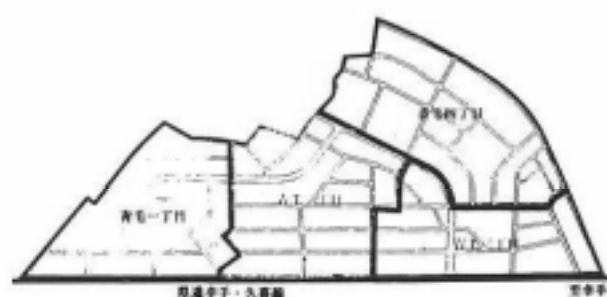
広報くき 平成14年10月



広報くき 昭和47年3月

久喜都市計画事業青毛特定土地区画整理事業

町界町名変更

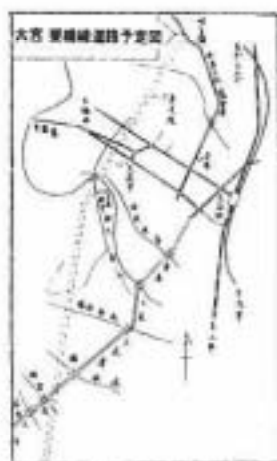


広報くき 平成12年6月

道路整備

大宮栗橋線の開通

久喜市は、都心から鉄道で1時間弱と交通の便に恵まれていますが、東北本線に平行する主要道路がないため、沿線地域は産業の発展から取り残されてきました。このような沿線地域の開発と、日を追って激増する自動車交通を緩和するために建設されたのが、主要地方道大宮栗橋線です。大宮栗橋線は、昭和37年に着工し同42年9月に開通しました。



大宮 栗橋線建設促進大会
 大宮市 栗橋線建設促進大会
 大宮市 栗橋線建設促進大会
 大宮市 栗橋線建設促進大会



久喜町だより 昭和37年8月 大宮栗橋線建設促進大会（昭和40年）

上早見歩道橋（昭和43年）

東北自動車道

東北縦貫自動車道は、昭和32年に公布された「国土開発幹線道路建設法」によって計画されたものでした。岩槻～仙台間の第1期工事の基本計画がたてられたのは昭和40年11月のことでした。翌昭和41年7月から着工され、昭和47年11月13日に開業しました。開業区間は岩槻～宇都宮間92.5kmでした。



東北道(埼玉県内)計画路線図
 東北自動車道路線決まる
 インターチェンジ江面に



インターチェンジ相互間の料金の額(単位円)
 ○普通車(軽を含む)

		宇都宮	
		鹿沼	100
料 金 表	栃木	200	250
	佐野	150	300
	館林	100	250
	加須	150	200
	久喜	100	200
岩槻	150	250	350
		400	550
		550	700
		700	800

久喜町だより 昭和42年2月

インターチェンジくわ入式(昭和45年)

広報くき 昭和47年10月

その他



県道幸手久喜線オーバーブリッジ(昭和50年)



開通当時の青毛・下早見線(昭和51年)

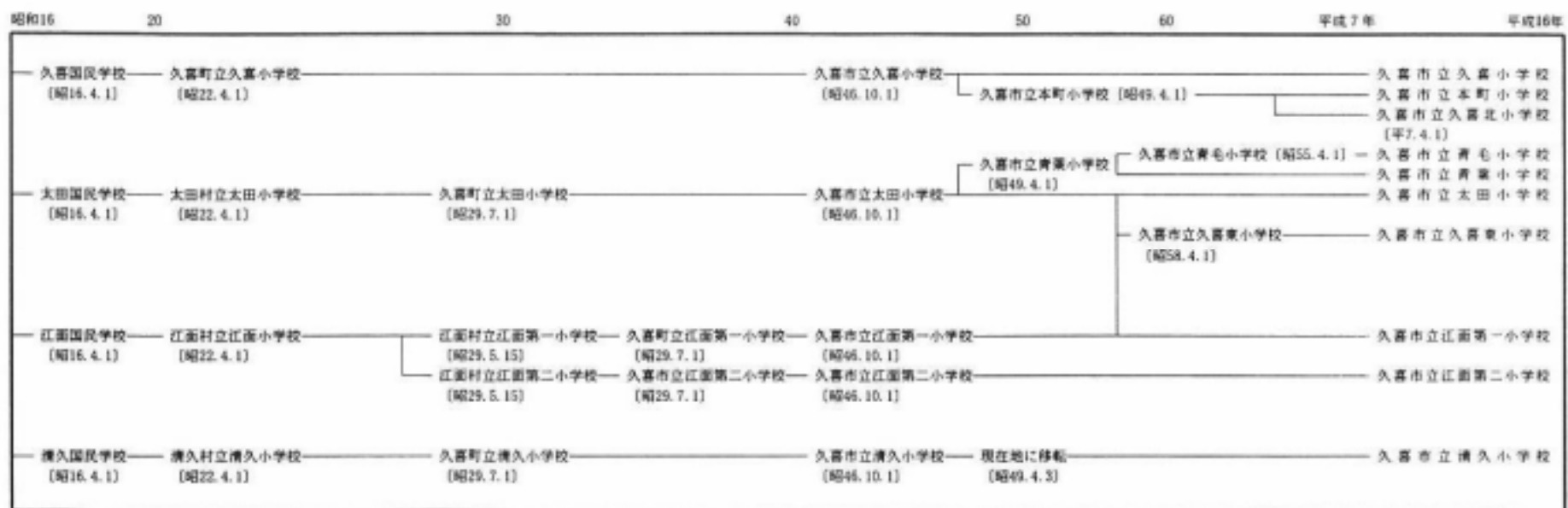


杉戸久喜線完成予想図

学 校

小学校

人口の増加は、児童生徒数の増加をもたらしました。将来の小中学校の適正な配置と適正な学区をつくるために、学区審議会の諮問を経て昭和45年に学区の再編成が行われました。昭和49年には、青葉団地の造成に伴い青葉小学校が、久喜小学校の過密解消のため本町小学校が開校しました。その後も人口増加が続いたために、新たな小学校を建設する必要が生じ、昭和55年には、青葉小学校の過密解消のために青毛小学校が、昭和58年には、太田小学校の過密解消のために久喜東小学校が、また平成7年には、久喜北小学校が開校しました。



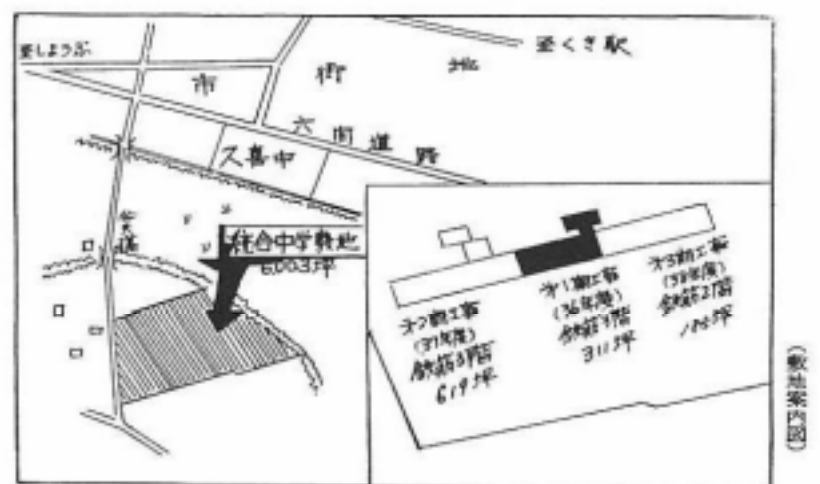
小学校分離の推移 『平成16年度 久喜市の教育』

中学校

昭和31年に、太田中学校が久喜中学校に統合され、また、昭和37年には、清久中学校と江面中学校が統合して久喜南中学校となりました。

昭和51年には、久喜中学校の過密解消のため久喜東中学校が青葉3丁目に、昭和60年には、久喜東中学校の過密解消のために太東中学校が吉羽地区に開校しました。

鉄筋三階建を計画



久喜町だより 昭和36年7月

高等学校・大学

昭和37年ごろより高校生の急増期に入り、埼玉県では工業高校の建設を東部地区に計画していました。久喜町では県に陳情するとともに、高校誘致を積極的に推進しました。その結果、昭和38年に久喜工業高等学校が、中学校統合で空いた清久中学校を仮校舎に開校し、翌39年に野久喜の新校舎に移転しました。その後、昭和62年に久喜北陽高等学校が開校しました。

平成5年には、下清久地区に、東京理科大学経営学部が開校しました。



久喜工業高等学校 (昭和39年)

広域行政

消 防

都市化の進展に伴うビルや住宅の増加は、消防業務のより高度な技術を要請するようになりました。久喜町では、鷺宮町と協議会を設け、県に対して一部事務組合設置の許可申請をし、昭和44年、久喜町鷺宮町消防組合が設立されました。

消防組合管理者には久喜町長、副管理者には鷺宮町長が選任されました。

**久喜町鷺宮町で
消防組合を設立**

消防行政については、先年、南埼玉郡北部で結成されている広域行政連絡協議会と研究協議してきました。そこで、去る三月十三日両町の話し合いがまとまり、県に対して一部事務組合設置の許可申請をしていいたところ、三月十七日付で許可となり、久喜町鷺宮町消防組合が設立されました。消防組合管理者には久喜町長、副管理者に鷺宮町長が選任されました。

この組合設立のそもそもの理由は、近年、社会経済の急速な発展にともない、各地方公共団体が、地域住民の福祉増進に広域的に行政を執行しつつあります。

埼玉県においても、総合開発計画が策定され、広域的に関連する地域の開発を企画しており、共通する分野については、今後関係町村の相互提



旧消防署（昭和45年完成）

久喜町だより 昭和44年 4月

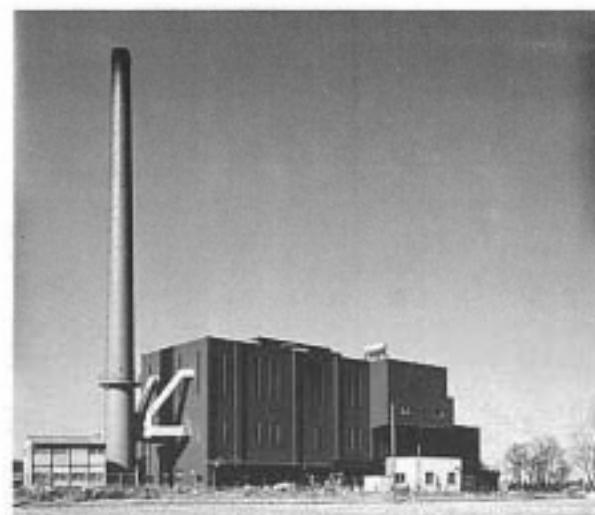
昭和51年には、消防力を広域的に充実強化し、地域住民の福祉をはかるため、久喜市鷺宮町消防組合は、久喜市・鷺宮町・菖蒲町・栗橋町の1市3町で消防の共同処理を行う久喜地区消防組合に組織を変更し、消防行政の広域化がはかられました。平成9年からは、新たに宮代町が加わり、1市4町の新体制で業務を開始しました。



消防本部の新庁舎(平成元年完成)



広報くき 平成9年4月



ごみ焼却炉（昭和55年完成）

衛生組合

衛生事業では、昭和36年3月に、久喜町宮代町衛生組合が設立され、共同による清掃事業を開始しました。昭和37年7月には、衛生組合内に、し尿処理場が完成しました。当初は、し尿処理のみを目的としましたが、昭和38年8月に1日8トンの焼却炉が完成し、9月からじん芥処理も開始しました。

その後、昭和46年、50年、55年に焼却炉を更新しました。平成2年、粗大ゴミ処理施設をつくり、処理能力のアップをはかりました。平成4年からは、資源ごみ（新聞紙、雑誌、ダンボール、古衣料、ビン・カン・ペットボトル）の回収を始めました。また、平成6年からは、燃やせないゴミ（プラスチック類）の分別収集も開始しました。

西口再開発

昭和45年、久喜市の東西を結ぶ橋上駅が完成するとともに、駅東口が開設されました。



改装前の久喜駅（昭和43年）



建設すむ久喜橋上駅(昭和45年)



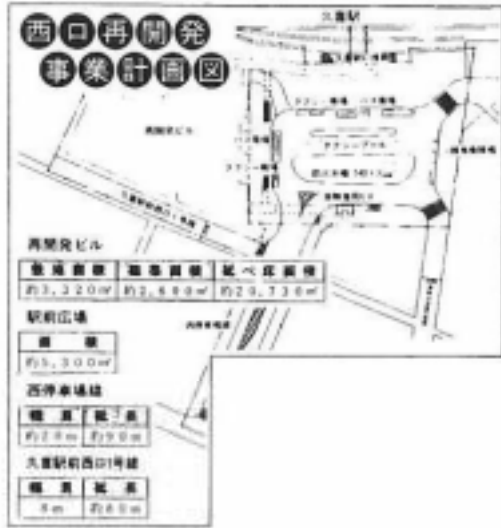
広報くき 昭和47年 1月

久喜駅西口の再開発事業は、昭和58年に都市計画が決定され、昭和61年には、事業計画の県知事認可がおりりました。平成2年、再開発ビル「サリア」が完成し、平成4年には、駅前広場も完成し終了しました。

再開発事業で 安全・快適な駅前づくりを



広報くき 昭和52年 6月



広報くき 昭和62年 2月



市街地開発課から見た久喜駅西口



「サリア」ビル



再開発前の西口周辺



駅前広場

市内施設



保健センター
昭和61年に完成



新借楽荘
平成13年 上清久に移転



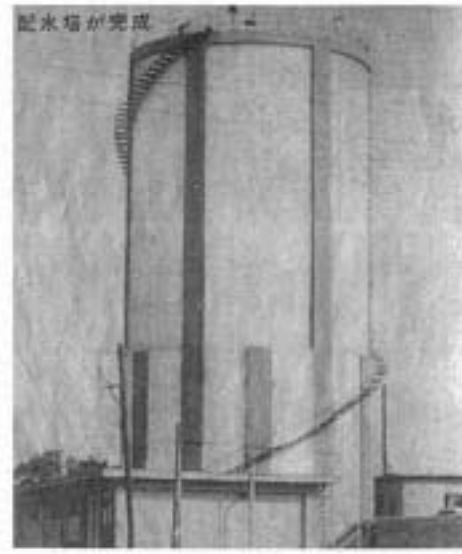
清久コミュニティセンター・西公民館
平成13年に完成



ふるさと農園久喜
平成11年に完成



久喜市総合体育館
平成5年に完成



旧久喜本浄水場（配水塔）
昭和44年に完成、平成元年に解体



本町
昭和57



旧借楽荘
昭和31年に完成



久喜勤労者体育センター
昭和59年に完成



市民プール
平成2年に完成



老人福祉センター
昭和55年完成



浄水場
年に完成



中央公民館
平成3年に完成



ふれあいセンター久喜
平成10年に完成



市立図書館
昭和62年に完成



吉羽浄水場
昭和47年に完成



児童センター
平成2年に完成



県立久喜図書館
昭和55年に完成



下水道古利根川処理センター
昭和49年に完成



センター
平成16年廃止



江面農村センター
昭和53年に完成



久喜総合文化会館
昭和62年に完成

国民体育大会

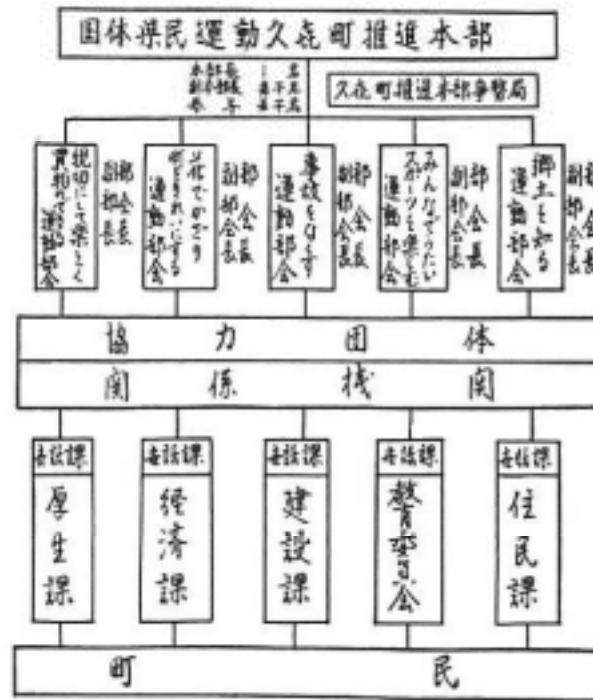
昭和42年、第22回国民体育大会夏季大会が、9月17日から20日まで、秋季大会が10月22日から27日まで、埼玉県内の28市町村の各会場で開催されました。

昭和40年、久喜においても、国体県民運動久喜町推進本部を結成し、その下に5つの運動部会を設けました。

当時の久喜町は、国体の会場になっていませんが、国体の意義を高めるため、

大会旗のリレーが、10月18日に町内を通過しました。通過コースは、鷺宮町から（鷺宮・古久喜の境）引継がれ、役場脇にて第2リレー隊に引継ぎ、駅前通りから幸手県道に向い、太田農協支所にて、第3リレー隊に引継ぎ、久喜・幸手境の幸橋で幸手町（現幸手市）に引き渡されました。

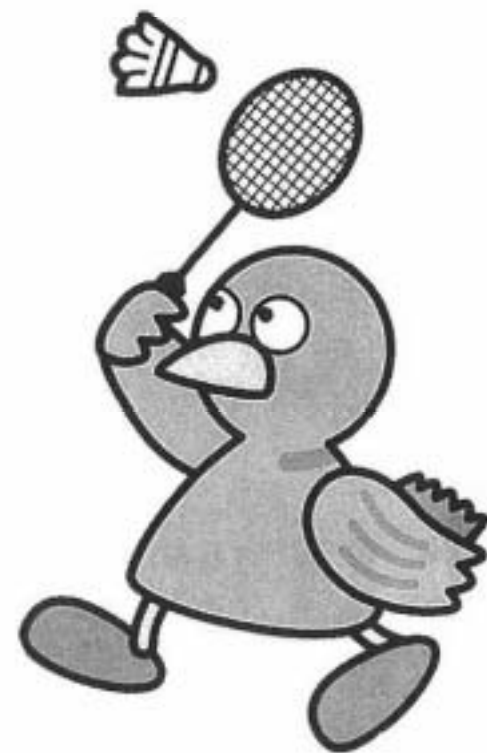
平成16年、国民体育大会が37年ぶりに、埼玉県で開催されます。平成16年に開催される第59回国民体育大会は、「日本一簡素で心のこもった国体」の大会理念のもと、県内の市町村を会場に実施され、久喜市では正式競技のパドミントン競技が行われます。



久喜町だより 昭和40年9月



国体旗の通過



コバトン

国体リハーサル大会

平成15年6月6日から8日までの3日間、総合体育館を会場に、国体のリハーサル大会として、「平成15年度関東高等学校バドミントン大会」が開催されました。



愛 称 彩の国びっくろ国体

【日本一簡素で心のこもった国体】という大会の理念を体現し、競技が心一つにして、真心のこもった取り組みがなされる大会と成ることを目指します。

スローガン とどけこの夢この歓声

夢に響きあふ選手、見守り、応援する人、遠くを走り、笑える人。それぞれの気持ちがいかに響くと、胸がいかに一つになります。この思いを、う、彩の国びっくろ国体へ...

マスコット コバトン (右下)

国民の鳥「トラコバト」をモチーフにして誕生したコバトンは、彩の国びっくろ国体のマスコットとして、あちこちを飛び回り、人から人へ、大会から大会へ、みんなの笑顔と真心を繋ぐコバトンのような存在です。

広報くき 平成13年12月

久喜市関連年表

昭和29年	町村合併法に伴い、久喜町が誕生	55年	青毛小学校が開校
31年	太田中学校を久喜中学校に編入 老人ホーム偕楽荘が完成		清久工業団地の造成完了 県立久喜図書館がオープン 老人福祉センターがオープン
33年	東北本線大宮・宇都宮間の電化完成		市庁舎が移転
36年	久喜町宮代町衛生組合が設立	56年	清久農村センターがオープン 坂本市長就任
37年	久喜南中学校が開校（江面中学校と清久中学校の統合） 衛生組合内にし尿処理場が完成 榎本町長が就任	57年	東北新幹線大宮・盛岡間の開通 久喜市高齢者事業団が発足
38年	県立久喜工業高等学校が開校	58年	久喜東小学校が開校 久喜駅西口再開発案の大綱決まる
39年	合併10周年、町章が決まる	59年	勤労者体育センターがオープン
40年	開発公社が設立	60年	太東中学校が開校
42年	主要地方道大宮栗橋線開通	61年	保健センターがオープン
44年	久喜町鷺宮町消防組合が設立 久喜本浄水場内に配水塔が完成	62年	久喜総合文化会館がオープン 市立図書館がオープン
45年	消防組合消防庁舎が完成 市街化区域、市街化調整区域が決定 久喜橋上駅が完成	平成元年	「人間尊重・平和都市」宣言
46年	市制施行に伴い、久喜市が誕生 市民憲章を制定 東口駅前広場が完成	2年	市内18路線に道路愛称表示板設置 児童センターがオープン 市民プールがオープン
47年	住居表示開始（東1～6丁目） 吉羽浄水場が完成 東北自動車道大宮・宇都宮間の開通	3年	中央公民館がオープン
49年	本町小学校・青葉小学校が開校 久喜市下水終末処理場が完成 青葉団地入居が始まる 市民の木・市民の花制定	4年	西口駅前広場が完成 資源ゴミの回収が開始
50年	中央幼稚園が開園	5年	東京理科大学久喜キャンパス開校 久喜市総合体育館がオープン 久喜市公文書館がオープン
51年	久喜東中学校が開校 久喜地区消防組合発足 久喜菖蒲工業団地に水上公園完成	6年	市内循環バスの運行開始
52年	曷川市長就任	9年	久喜地区消防組合に宮代町が加入 田中市長就任
53年	南公民館（農村センター）がオープン	10年	市民懇談会の開催
		11年	子ども議会の開催 ふるさと農園久喜がオープン ISO14001を取得
		13年	清久コミュニティセンターがオープン



平成14年頃

市章



「久」を2つ組み合わせ、中の白の部分で、「キ」と読ませ、三角形で市の安定と発展及び向上を表現しています。
(昭和39年9月19日制定)



市民の木／いちじょう



市民の花／梨の花

市制施行3周年を記念して昭和49年10月に制定されました。